

福井県にある、曹洞宗大本山永平寺。皆さんは訪れたことはありますか。  
緑深い木々に囲まれた山間に、大小さまざまな建物が建ち、多くの修行僧が日々  
仏道修行を行っています。

お寺の建物のことを、「伽藍」といいます。

「伽藍」はインドの言葉で「僧侶が集まり修行をする静かで清らかな場所」という  
意味の「サンガーラマ」という言葉がもととなっています。中国に伝わり「僧伽藍  
摩」(そうがらんま)となり、略されて「伽藍」といわれるようになりました。

そして、たくさんの僧侶が集まり修行をしていく上で欠かすことのできない七つの  
建物のことを、「七堂伽藍」といいます。

道元禅師が開かれた永平寺の七堂伽藍の配置は、坐禅をしている姿にたとえられま  
す。

坐禅の姿の頭にあたる建物が、法則の「法」に、お堂の「堂」と書き「法堂」とい  
います。朝のお勤めなどの法要や、仏教の教えを訊く問答などが行われます。

心臓にあたる建物が「仏殿」。御本尊であるお釈迦さまをはじめ、多くの仏様が祀  
られています。

坐禅の腰骨にあたる建物が「山門」。

坐禅を組んだ足の、右膝にあたる建物が「東司」、お手洗いで、左膝にあたるのが  
「浴司」、お風呂です。

坐禅の姿の両腕にあたる建物が「僧堂」と「庫院」です。右腕にあたる「僧堂」は坐禅堂  
ともいい、その名の通り修行僧が坐禅をし、また寝起きや食事をする、修行生活の多  
くの時間を過ごす建物です。

僧堂と対をなして建っている「庫院」では食事を作ったり寺院運営をしたりします。

七堂伽藍の建物は、それぞれがさまざまな役割を持ち、その全てが修行生活を行う  
上で欠かすことができません。坐禅やお勤めなどはもちろんですが、食事をするこ  
とや作ること、お風呂に入ること、用を足すこと、寝ることなど、七堂伽藍での行い全  
てを仏道修行とするのです。

つまり、坐禅やお経を上げるお勤めだけが修行なのではなく、食事や掃除などの日

常生活の行い全てを修行として見出し、修行として実践<sup>じっせん</sup>していくという、道元禅師の教えをあらわしているのです。

七堂伽藍<sup>いぎ</sup>はそこに息づく仏道修行を支えています。

永平寺を訪れるときには、伽藍<sup>がらん</sup>だけではなく、そこで行われている修行生活に思いを馳<sup>は</sup>せてみてはいかがでしょうか。